

## 会 議 録

1 会議名

令和2年度第1回阿賀野市子ども・子育て会議

2 開催日時

令和2年6月17日（水曜日） 午後3時00分から午後4時50分まで

3 開催場所

阿賀野市役所 4階402会議室

4 出席者（傍聴者を除く。）の氏名（敬称略）

・委員長：丸山 賢宗

・副委員長：石黒 篤志

・委員：上島 秀樹、本間 淳子、長谷川 京子、藤田 郁雄、柄澤 宗紀、  
熊田 康代、田崎 麻衣子（10人中9人出席）

・事務局：学校教育課長、学事係長

社会福祉課長、社会福祉課長補佐、児童福祉係長、渡辺主任（計6人）

5 議題（公開・非公開の別）

（1）委員長及び副委員長の互選（公開）

（2）第二期阿賀野市子ども・子育て支援事業計画（案）について（公開）

（3）その他（公開）

6 非公開の理由

なし

7 傍聴者の数

0人

## 8 発言の内容

### (1) 委員長及び副委員長の互選について

**五十嵐係長**：「阿賀野市子ども・子育て会議条例」では、第5条に委員長及び副委員長の選出について記載されています。委員長及び副委員長は、委員の互選により定められています。当会議の委員長は、阿賀野市保育会会長丸山賢宗様からお引き受けいただいております。

令和元年9月に委員が委任されてから初めての会議のため、委員長、副委員長を選出する必要があります。委員長の選出ですが、どなたかお引き受けいただける方はいらっしゃいますでしょうか。

(事務局一任の声あり)

どなたもいらっしゃらないようですので、事務局からご提案してよろしいでしょうか。様々な福祉の知識をお持ちであり、児童福祉の分野に精通されておられる阿賀野市保育会会長丸山賢宗様にお願いしたいと思いますがよろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

続いて、副委員長の選出ですが、どなたかお引き受けいただける方はいらっしゃいますでしょうか。どなたもいらっしゃらないようですので、事務局からご提案してよろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

副委員長につきましては、学識経験豊富な安田小学校校長石黒篤志様にお願いしたいと思いますがよろしいでしょうか。

(異議なし声あり)

それでは、委員長、副委員長は席の移動をお願いいたします。丸山委員長から一言ご挨拶をいただき、この後の進行も併せてお願いいたします。

**丸山委員長**：ただいま、事務局のほうからご紹介ございました、第一期の時も委員長をつとめさせていただきました、阿賀野市保育会会長をしております丸山賢宗と申します。認定こども園の園長をしております。安野小学校の隣の安野こども園で園長をしております。阿賀野市の認定こども園、保育園が集まって、阿賀野市保育会を組織しております、その会長をしております。このたび、事務局のほうからのご指名、皆様方からの賛同をいただきまして、つとめさせていただきますので、よろしく願います

冒頭の課長のあいさつにもありましたとおり、この子ども・子育て会議は、これからの阿賀野市の子どもたちの育つ環境を作るための大変重要な会議であります。皆様方ご承知のとおり、子どもを取り巻く環境というものは、今ものすごく変化しております。より良い教育のあり方、より良い育ちのあり方というもののために、大いに議論して、そして市の政策また、教育現場に反映していかなければならないなということを感じておりますので、どうぞ委員の皆様には、忌憚のないご意見を賜りま

すよう、よろしく申し上げます。

(会議出席者の自己紹介を実施)

それでは、議事に入ります。議題(2)の「第二期阿賀野市子ども・子育て支援事業計画(案)について」、事務局より説明をお願いします。

## (2) 第二期阿賀野市子ども・子育て支援事業計画(案)について

**五十嵐係長**：まず初めに、第二期計画を策定するために、平成31年1月に、就学前児童及び就学児童に対しアンケートを実施いたしました。その結果をもとに、第二期阿賀野市子ども・子育て支援事業計画(案)を作成しました。

資料2をご覧ください。最初に1ページ目をめくっていただきますと、目次になっています。計画は6章建てになっており、第1章が「計画策定にあたって」、第2章が「阿賀野市の現状」、第3章が「計画の基本的な考え方」、第4章が「計画の展開」第5章が「子どもの貧困対策」、第6章が「計画の推進」そして最後に資料編となっています。

事前に、第二期阿賀野市子ども・子育て支援事業計画(案)を送付した際に、委員の皆様からいただいたご意見について、説明させていただきます。

では、資料1と資料2をご覧ください。資料1の「事前意見の一覧」を読み上げながら説明いたします。資料2は、意見をもとに修正しており、ページ数は、事前に配布したものと少し変わっています。資料1の「ページ」に矢印がある下のものが本日お渡しした資料2のページ数となっておりますので、あわせてご覧ください。

資料1「事前の意見の一覧」、資料2「第二期阿賀野市子ども・子育て支援事業計画(案)」について説明

**委員**：未設置の小学校はどこか。

**五十嵐係長**：未設置は、堀越小学校区と分田小学校区になります。今までは、神山小学校区もなかったが、今年度から小学校内で開設しています。

**委員**：この小学校区の児童は、親が休むのか。仕事ができないのか。

**五十嵐係長**：水原小学校区の児童クラブへ、施設の車で迎えに行っていて利用しています。

**委員**：予定としては、どうなのか。

**五十嵐係長**：来年度に、堀越小学校区で学校から歩いて通える場所で児童クラブを開所予定です。

**委員**：分田小学校の児童は、堀越地区にできれば、利用するのか。

**五十嵐係長**：分田小学校は、風の子児童クラブ、安田地区のクラブを利用していますが、同じ中学校に上がるため、そのあたりは検討していければと思います。

**委員**：京ヶ瀬こども園に上の子が入っているけれど、下の子が笹神の園に入った人もいと聞いている。かなりバラツキがあるということから、京ヶ瀬は多いけれど他のところは、実際には定員に達していないことからこういうことを記載した。それが分かるようにしないと、どういうものが必要かという話し合いができないのではないかと

意見です。

**委員長：**京ヶ瀬地区以外にも、笹神等にもいろいろと案件があります。忌憚ないご意見をいただきたいと思います。最後に、また議論したいと思います。

(説明の終了)

**委員長：**ありがとうございました。今聞いていた中で、課題が山積みかと思います。第一期の時から引き続きにもなるのですが、阿賀野市どんどん人口が減っている、子どもの人口も減っている。この中で、地域において大きい格差が生まれてきています。例えば先ほど委員が言われた、京ヶ瀬地域は宅地造成が進んでいる中で、量と質両方考えていかなければいけない中で、量が圧倒的に足りていない。そして、どうしても急増のものに対して、質というものも問題になってきている。半面、笹神地域では、児童クラブの整備は進んでいるが、逆に大幅な人口減。その中で、地域がどうやって今後の子育てを考えていけばいいか。相反することを2つ考えていかなければならない。それが、この地域なのではないかと思っています。バイパスが整備されれば、また大きく環境も変わってくるのかなと思っています。保護者、また子どもから見ても不安があるということが一番いろいろな問題が起きてくることと思いますので、まず、量の面について、児童クラブ未設置地域を早めに整備していただきたいということと、先ほどご意見がありました、本当にその地域の園に入れるのか、あるいはまた、1つの阿賀野市地域と考えているけれど、その中でどういう交通整理をして考えていくか。

私もこども園を運営しているが、こども園も義務教育ではないので選ばれる時代になってきた。やはり質というもの、量だけではなく質、そして、学校の教育指導要領が変わると同時に、認定こども園、保育園の教育・保育要領も変わってきている中で、選ばれる園づくりをしていかなければいけない。旧来のものから新制度が始まって大きく変わってきている。私は、良いことだと思う。幼児期の子どもをどう育てていくか、さっき「小1の壁」とあったが、この「小1の壁」の垣根をどう低くしていくか、それと同時に保護者の皆様方にとって、より利用しやすい、そして働いて安心だという量と質の整備、これを考えていくのが、この会議の一番大事なところであり、一期のところでも、これを宿題としていてそのまま残っている。

先ほど、良い質問がたくさんありましたので、量の面について、各地域でその地域に住んで利用している方が一番良く現状を知っているかと思っています。その現状の中でこの点はどうなっているのか、ご意見をお願いします。

**委員：**すぎの子クラブは、水原小学校の敷地内にクラブがある。昨年度までは、神山小学校のお子さんが来ていたが、今年度神山小学校にクラブができたことから、神山小学校分の定員が空きました。だいたい、12～3人分。その分、水原小学校のお子さんか来れるということで、今年度は、4年生までということですが、最初は申し込まれるが、友達がいないとか、学校の終わる時間が6限が多くなって帰宅時

間が遅くなるということで、4年生の利用が少なくなっています。学年が上がれば、親は心配で預けたいという気持ちはあるが、お子さんと相談してくださいということで、留守番ができるのか提案させていただきます。定員を広げても高学年になると、留守番ができる、塾に行ったりして、上手に留守番の時間を使えるように子どもたちになってきています。

実際に必要と思われるのは3年生、4年生くらいかなということは現場にいて感じます。

**委員長：**私も児童クラブを運営しているが、利用はほとんどが1、2年生で、3年生になると少なくなってくる。6年生まで受け入れ枠はあるが、利用がないような状態です。

水原小学校区は、足りている状況でしょうか。水原小学校区は、たちばな学童クラブ、すぎの子クラブ、おとぎのくに児童クラブ、ひまわり笑楽館とあるが、充足率ほどのくらいでしょうか。

**五十嵐係長：**去年の状況であれば、4月時点はほぼ100%に近い状況ですが、夏休みが終わってくると、ちょっとずつ自宅で過ごすようになってきて、今年は、3月にコロナウイルスがあったのでご自宅で見えていただいたりということがあり、例年より下がりました。4月は、1年生のお子さんを含めて不安があるので利用一番が多くて、そこから下がっていくという、例年同じような流れです。

**委員長：**児童クラブはそういう傾向がある、夏休み後、急激に減っていきます。せっかく作ったのに成り立たない、そういう不安が神山は今後出てくる。堀越、特に分田、運営面の不安というところから今後どうなってくるのかなというところが1点、堀越と分田は一緒にならないのかとか、いろいろな案件もあるかと思うのですが、成り立たないものを作ってもしょうがない。それとは逆に京ヶ瀬地域は、このところ宅地造成が大幅に進んでいる中で、質的な面も大丈夫なのか、量的なものが増えて大丈夫なのかということがあるが、どうでしょうか。

**委員：**すごく狭い所に子どもたちがいっぱいいる。コロナウイルスと言われているが、それどころではない。3密がずっと続いている。外で遊ばせてもらったりしていますが、密な状態になっていて狭いと感じます。

後は、設備も整っていないので、その辺を何とかなればと考えています。

**委員長：**今回、コロナという大きい危機があった中で、子どもの受入れ場所として学校の一部を提供していただいた。隣の小学校から、グラウンドを使ってくださいと話があり広く使うことができ大変助かった。学校との連携も、1つのあり方という風に考えています。園長会でも、危機管理に関する学校との連絡のあり方を両課長と議論させていただいた。児童クラブを整備するうえでも、学校との連携、神山小学校の中にスペースを借りてということいろいろと、良い面もあれば悪い面もある。実際に利用していますか。

**委員**：うちは利用していないが、周りの方は利用しています。以前すぎの子にお世話になっていた子たちも来ていて、すごく整った環境から、図書室の一部を仕切って使っているのでは前から比べると3密。スペースが限られているので狭いという話は聞きます。学校から直なので、それは助かっているそうです。

**委員長**：放課後は、グラウンドを使わせてもらっていますか。

**委員**：そうかもしれない。体育館の話はよく聞きます。

**委員長**：それは良い。

**委員**：教室は、空いているのですが。

**委員**：図書室の脇にも広い部屋はあるが、図書室の半分しか使えないのでかわいそうに思います。

**委員**：児童クラブと教室は違うんですね。

**委員**：1年生から大きい子まで一緒にいて、トラブルもある。遊び方も違うし、狭い所なので、という話も聞いています。良いところも悪いところもという感じはあるようです。もっと広いと良いのかもしれないです。

**委員長**：学校管理の面であるのかもしれない。

**副委員長**：学校は、全体としては広く見えますが、外から入ってこられる方に、ある程度管理をしておかなければならない。いつまでも学校の職員がそこにいる訳にもいかないということもあるので、ある限られた部分について、警備会社の関係もありますから、ここであれば使えるというところを、各学校で提供しているのではないかと思います。柵の向こうは広々と使えるところもあるが、そういった事情があることをご理解いただきたい。

**委員長**：京ヶ瀬地域のことは、真剣に考えていかなければならない。コスモス児童クラブの定員枠は何人でしょうか。

**五十嵐係長**：コスモス児童クラブは70人定員です。

**委員長**：その充足率は、1人当たりの面積は。

**五十嵐係長**：今年の春で60人なので、10名ほど枠があります。1人当たり2㎡あるかどうかです。

**委員**：通常はどれくらいですか。

**五十嵐係長**：最低の基準が1.65㎡です。

**委員長**：子どもの育ちを考えると、新潟市のひまわりクラブも地域によっては、すし詰め、やっていることと言えば、隣同士でトランプしたり、宿題したり、本を読んで帰るというようなところもあるということは、私も見てきています。

阿賀野市では、学校利用やある程度スペースもあるので良いのではないかと思います。神山地域は、多く利用しても20名くらいでしょうか。

**五十嵐係長**：20名くらいで、その他一時利用です。

**丸山委員長**：コロナウイルスという未曾有の危機があった場合には、先ほどご意見の

あった3密を考えなければならない。ほかの公共施設の使用であるとか、弾力的な運用も考えていく必要があります。

今後京ヶ瀬地域の人口が増えてきた場合、希望するこども園へ入れない、という声もあったけれども、将来的にみると子どもの数は減るということはわかります。その辺をどういう風に整備していくのか。保護者の中には、一番そこを不安に思っている。かといって、京ヶ瀬地域に住んでいらっしゃる方が笹神の園まで通って、そこから新潟市へ出勤するという事はなかなか難しい。笹神のバスが、京ヶ瀬まで迎えに行くというのも現実的ではない。同じ1つのものとして考えられない中で、いろいろな課題、質の向上につながらないと思います。展望的には、どのような計画があるのでしょうか。

**山崎課長：**京ヶ瀬のことを考えると非常に難しいというところであります。京ヶ瀬がこれだけ宅地造成が増えたのは、この3年ほどです。平成28年度には、こういうことはありませんでした。ここ3年ほどで、急激に宅地造成が進んでおりまして、今も、京ヶ瀬幼稚園の横に宅地造成が進んでいます。今後これで行くのかというと、コロナの関係もありどうなるか分かりませんし、先ほど委員長がおっしゃっていたように、バイパスが繋がるとどうなるかまたわからない。かなり変わった動きになるのかなということも想像できますし、京ヶ瀬にお住まいの方が気をもんでおられるのはよく分かります。先ほど委員長が、施設整備が進んでもその後成り立たなくなってしまうということもおっしゃっていたと思われまます。幸いにも、京ヶ瀬こども園さんからはご理解いただき、定員を増やしていただいたという経緯もあります。公立京ヶ瀬幼稚園にも、キャパ的にはもう少し余裕がありますので、まずはそこを充足させてから。幼稚園さんのほうに受入れをしていただいて、その後、何ができるかということを考えてまいりたいと思っております。

水原地区のひまわりさん、日章さんも認定こども園になるという動きもあることですから、阿賀野市の社会資本を十分に活用した中で今後取り組んで参りたいと考えているところです。

**委員長：**32ページの確保方策として、ひまわり幼稚園の園舎建替え、日章幼稚園の園舎建替え、あやめ保育園、みどり保育園の大規模改修、令和5年に京ヶ瀬こども園の園舎建替えとありますが、施設整備となると地域の条件に合わせた形で、特に新園舎となると、この地域はこれくらいの子どもが見込まれるからこれくらいの枠数で建てなさいとか、それに対する予算付けとかあるのですが、細かい数字的なものは上がっているのでしょうか。どこに建つのかもわからない。子ども・子育て会議なので、市全体の中の計画を立てなければならないので、どこでも建てていいものではないと思うのですよね。修繕でも、受け入れ枠の増減があると思う。この辺は、大まかなことは書いてあるが、細かいことがわからない。

**山崎課長：**今議題に上がっている、子どもの枠が足りないという部分は、以上児のこ

とではない。実際以上児、3歳から5歳は、皆さんも足りているということをご承知かと思しますので、今話題になっているのは、未満児をどうするかということに尽きると私はとらえております。

ひまわり幼稚園さんは、今の場所で園庭を校舎にして、校舎側を園庭にするというような計画だと聞き及んでおります。あと、日章さんにつきましては、白鳥荘の近くに新築するという風にお聞きしています。今は、幼稚園のため未満児はいないわけですが、今後、認定こども園となって足りないと言われていた未満児さんを受け入れていただくことで、阿賀野市全体としての社会資本の中で交通整理できればなど期待しています。

**委員長：**京ヶ瀬地域の利用者の声はどうでしょうか。いろいろな声が耳に入っていると思うけれど、今この場でお伝えしたいこと、利用者の声の代弁というものがありませんでしたら。

**委員：**京ヶ瀬こども園の裏に幼稚園があるが、スペースが空いている気がする。全部使っていないで、あんまりお子さんが入っていない気がします。募集があつた数に対して、公立だから先生何人必要というような話があるのだと思うのですが。何で、京ヶ瀬こども園は多くて、幼稚園は少なくてということが起こるのかと思う。均等になればいいが、先生の数が必要だから定員がこれだけだとしているのか、そもそもそっちのほうに募集があんまり行かないのか、よくわからないなと思います。

**五十嵐係長：**この春の人数は、京ヶ瀬幼稚園は65人、京ヶ瀬こども園さんは173人です。

**委員：**倍くらい違いますね。スペース的にどれくらい余裕があるのでしょうか。場所は、京ヶ瀬こども園と幼稚園と大差ない広さだと思うけれども。

**山崎課長：**京ヶ瀬幼稚園の広さだけで言えば96人までは、算数ですがまだ余裕が30人ほどあるので、ここがいっぱいになってからというようなことでないとその後の維持が大変かなということがあります。

**委員：**京ヶ瀬地区の方は、今年に関しては京ヶ瀬こども園か京ヶ瀬幼稚園か分かりませんが、応募した人は100%入っている状況なのか。それとも、違う場所に行ってもらっている人もいるのか。

**渡辺主任：**京ヶ瀬こども園と京ヶ瀬幼稚園を希望した方は、どちらかの園へ入園しています。第1希望で京ヶ瀬こども園を希望する人が多いです。

**委員：**なぜでしょうか。

**山崎課長：**その件については、先ほど会長さんがおっしゃったように、選ばれる園を目指すということに尽きるのかなと思っています。

**委員長：**選ばれていないということでしょうか。

**山崎課長：**どうでしょうか。

**委員：**見学させてもらったことがあるが、すごく楽しくしていました。取組が違う。



**委員**：京ヶ瀬こども園ですか。

**委員**：そう思いましたね。

**委員長**：この辺は、量と質の確保という、その質というところでしょうか。

**委員**：それは、同じお金を払って保護者はやっているのに、隣はあれだけけどこちらは質が悪いよということになると、質が悪いかどうかはわからないけれど。

**委員**：幼稚園と保育園の差ということがあるのでしょうか。自分の子どもが入っていた時より、幼稚園の受入れ時間は長くなったような気がします。今は変わってきていますか。

**課長**：4年前は、幼稚園は2時。平成27年度に子ども・子育て支援新制度が始まりましたが、その前までは、幼稚園は文科省の管轄で理想とされる教育時間が4時間でした。午前中教育をして、ご飯を食べて、おおむね2時に帰って、帰宅後にお母様と振り返りをする中で幼稚園で習ったものが定着をするというのが、当時の幼稚園のスタンダードでした。先ほど委員長がおっしゃられたように社会が大きく変わってまいりまして、平成27年度に国の子育ての大転換があったわけです。その後幼稚園がどうなっているかと、私立のひまわり幼稚園は、6時までやっています。京ヶ瀬幼稚園に当時言ったのは、こんなことをしていると選ばれなくなる。社会は、国の教育の質というものよりも今は量を求めているのだから、市の職員として、公立として選ばれないと存在価値がなくなるよという話をした覚えがあります。その後、4、5年たちまして、京ヶ瀬幼稚園では7時までやっています。2時までだったものが、運用的には5時間ほど延長しているということです。この5年の中で、受け入れ態勢というものが変わってきたのかなと、後は、皆様方から支持をしていただけることに尽きるのかなと思います。時間的には延長しているわけですので、市民の皆様方に承知されているのかどうかというものを今感じているところです。朝も8時半からでないということも、京ヶ瀬幼稚園はこども園になり、朝7時から夜7時までされているということですので、当時8時半から2時までというところから比べれば、ずいぶん改善されていると感じているところです。

**委員長**：社会環境が大きく変化しているのは、ご承知のとおりだと思います。今、専業主婦というものが子育て世帯ではほとんどいない。社会のニーズというものが、長く預かるのが良いとは言いませんけれども、必要なニーズにどう答えていくか。長時間子どもを園で預かるわけですから、園で過ごす時間は家庭で過ごす時間より長い。小学校よりも長い時間を過ごすわけです。一昔前であれば、それは家庭で教育を行っていたということが、今園が教育を行う時代です。園の教育内容、どういった教育内容で子どもさんを育てていくかということ、非常に保護者の皆様方は見て、そして選んでここに通わせるというのが、選ばれる一つのポイントです。そこを、認定こども園、保育園は目指していかなければいけないのかな。ただ、同じ公費を投入して、同じ保育料を払って何でこんなに違うのか。そこは質を向上する面では、考えていかな

ければならない。

安田地区も、安田幼稚園、ほたるこども園、風の子こども園があるけれど、安田幼稚園は、だいぶ少ないですよ。

**委員**：年中さんがいないのですよね。

**高橋係長**：去年の年中なので、今年は年長です。

**委員**：応募が1人、2人しかいなくて急遽受けないことにしたと聞いた。保育園の利用者が多いですよ。

**副委員長**：安田の幼稚園は、確かに少ないです。それは、先ほど課長さんがおっしゃったように、もともと幼稚園というもののイメージが8時から2時というイメージを皆さん持っていることと、年齢的な、先ほど未満児という話がありましたが、そういうところまで公立の幼稚園もしくはこども園では、今受入れているのでしょうか。

**山崎課長**：安田幼稚園は、未満児を受け入れておりません。認定こども園ではありませんので、3．4．5歳です。

**副委員長**：そうなると、幅が狭くなってきているから、風の子さんやほたるさんへ行くけれども、私が参観させてもらったときに思ったんですが、決して教育の内容というか質自体が低いわけではないと思うのですよね。幼稚園ですから学校と同じような。学校になるのでそれに合わせたきちんとした教育がされているなと思うので、そういうところをアピールしていかなければならないというところがあるんですけども、保護者の方が、何をニーズにしているのかをもっと、市全体としてつかまないと、それに合わせた受け入れ態勢、どういう風にやっていくのか考えることも大事なのかな。安田幼稚園さん、京ヶ瀬幼稚園さんみたいなのが、ニーズの中で位置づけられていくのかということを考えて、活かしていくということが大切なんじゃないかなと思います。

**委員長**：体質改善は必要なのかなと私は感じています。組織改革ということになってくるのでしょうか、阿賀野市保育会としては、他市はこども課という中で動いており、生まれてから大人になるまでの連続性の中で物事を育てていかなければならない。今幼稚園さんの話が出たが、決して何もやっていないかと言えば、そう言うわけではないですし、それぞれの園では一生懸命子どものために幼児教育、保育をすすめているのですが、やはり接続も一生懸命考えていかなければならないと思っています。

新しい法の下で、阿賀野市は、特に認定こども園の率が高いです。認定こども園となると、学校という位置づけをいただいて、今までは保育士だったものが保育教諭になって、幼稚園、認定こども園、保育園の垣根がだんだんなくなってきています。それは、社会全体で子どもを、生まれたときからしっかり教育していかなければならないという中で動いているのですよね。そうやってきたときに、市の子ども・子育てを考えてきたときに、連続性、さっき「小1の壁」というものがありましたけれども、幼稚園ともよく話をしていって、足りないところをお互い、「こういうやり方があった

んだ」と情報交換してお互いが高まりあっていくというものを考えていかなければいけないものがない。この間、学校教育課、社会福祉課ともお話をさせていただいて、危機管理の在り方で連携というものを取らせていただいたのですが、やはり就学に関しても学校とはきちんと連携を取って、1年間は「就学時のプログラム作り」というものを、これを密度の濃いものを作っていかなければならないのかなというふうには感じています。この辺は、市の方の組織改革になってきますので。ただ、そういったものも必要な時に来ているのかなと感じますので、保育会としてはこども課設置、又は課で分けるのではなくって1つの流れの中でという風に考えていただければと思っています。ここに意見を出させていただきました。

県のほうでは、何か管轄している中でご意見は。

**委員：**県の方でもひとり親の方への貸付金など支援策がありますので、それを周知させていただきまして、それを活用していただければと思います。

**副委員長：**先ほどお話があったように、幼稚園だ、保育園だ、こども園だというよりも、子どもを育てて、学校が受けて、それをいかに中学校につなげていくかという、長い目で見た情報共有というそういうのがとても大切なことで、その中で、子育ては、家庭教育であると言われていきますから、おうちの方のニーズをどう把握していくかということを考えていくことが大事だなということを思っております。

**委員長：**委員の方から、これだけは、ということがあれば。

今日は、いろいろと大きい話ばかりだったので、各論のところまでは行ってないとは思いますが、また、第2回目がありますので、ぜひ、地域の皆様方の声をくんでいただいて、この会議のテーブルに大いに出していただきたいと思います。

事務局のほうから「その他」というところで、今後のスケジュールということで、説明があるかと思しますので、それを受けまして「その他」の方に移らせていただきたいと思います。

### (3) その他について

**五十嵐係長：**事前意見において修正しました、お手元の(案)資料2により、7月8日から8月6日までの1か月間パブリックコメントを募集したいと思います。パブリックコメントを受け、修正計画案を作成し、8月20日以降に第2回会議の開催を考えております。

大変タイトなスケジュールになり、大変恐縮ではありますが、委員の皆様におかれましてはご協力をお願いいたします。

**委員長：**今ほど、ご説明があったとおり、市の方でパブリックコメントをとるということ。

**山崎課長：**委員長、ここで確認をさせていただきたいのですが、第2回、第3回というお話をいただいたところですが、第3回はないかなということで進めさせていただければということで提案なんです。今回事前に提案させていただいて、修正さ

せていただいたのがこれです。これで広く市民の方に意見を募るとというのがパブリックコメントになります。市民の方から意見をいただいたものについて、修正する、修正しないというものを、盆明けに、皆様方にご提示をさせていただきます。その中で、良いとか悪いとか、ここはもうちょっとだとかという議論をいただいて、それで最終的な確定にさせていただければなど。そして、9月の市議会に報告させていただきたいなということです。本来であれば、何度か、3回、4回という形で、1年をかけてこういったものを作成すべきところですが、冒頭でもお伝えしました、昨年その作業をやって、今年度からこれを運用したかったわけですが、国の情報がなかった。そのような中で遅れ遅れになっていて、五十嵐が申し上げた日程がタイトになってきている。もちろん、2回ではダメだ、議会に報告するのがもうちょっと後ということであれば、こちらの意見が主になるわけですので、皆様方のご意見に私共は寄り添いますけれども、現時点での私共の予定としては、そのような予定ですと考えておりますということ、補足させていただきました。

**委員長：**今ほど、課長から、詳細な内容について説明がありました。まず、7月8日から8月6日までパブリックコメントを募る。そして8月20日以降第2回会議を開いて最終的な第二期子ども・子育て支援事業計画（案）をまとめる。次回の第2回会議で計画案の修正が提示されると思いますが、それを審議して決定されるという流れで、皆様方よろしいでしょうか。

**委員：**パブリックコメントはどうやって募るんですか。

**山崎課長：**この場で、この内容でいいよとご承諾がえられれば、ネットで広く公開します。

**五十嵐係長：**本所と支所と市立図書館にも同じものを置いて、ネットからも取れるし、その場でももらうことができる。意見も、メール、FAX、郵送で提出と、紙と電子データと両方の方法があります。

**山崎課長：**広く市民の皆様方から、ご意見を頂戴する機会を設けるということです。約束はできませんが、意見を反映したものを、また今回のように事前に委員の皆様へ配布をしたいなど。皆様方のところに、会議の前までにはお届をしてご意見をいただければ、そのような形で取り組ませていただきたいと思います。

**委員：**ちなみに、1期の時は、同じようなパブリックコメントはあったのですか。

**山崎課長：**当時は、まだパブリックコメントというのはありませんでした。

**委員：**今の話を聞いていると、ネットで公開しても、阿賀野市のホームページは見に行かないですね。

**五十嵐係長：**広報にも掲載します。

**委員長：**委員の皆様方からも広く周知していただいて、意見を出す良い機会かと思えますので、差し当たって、この案ということで、ここは大幅に変だよとかはないでしょうか。大丈夫でしょうか。

まず、これで事務局の方が出ささせていただいて、パブリックコメントを取りたい、ということですので、この第1回の会議では、これを出していいかどうかということ

を。  
**委員**：見るといろいろ書いてあるけれど、実際、何をどういう風にここまでやりますということが、具体的に書いていないと思うので、それがわからないから、これを見ても「ふーんそうなんだ」と思う人がほとんど。こういうのをちゃんとやるのであれば、いつまでに、こういうことをやります。というのを決めないと、一期の時からあんまり進んでいないというのがあったと思うけれど、そういうことが起きるので、ちゃんとやった方が良くと思います。

**委員長**：それは、どの辺まで書けるものでしょうか。例えば、皆さん方の心配事は、堀越地域の学童がいつできるのかとか、そういったことが皆さん知りたいのかな、と思います。

**委員**：保育園の校舎が書かれているので「ああ」と思いました。

**委員長**：そうですね。

**委員**：これくらいかな、と思う。

**委員**：これくらいだけれど、これくらい書くのも大変。

**委員長**：出せる情報、出せない情報がある。

**委員**：お金がかかることでしょう。

**委員長**：この辺はどうでしょうか。具体的な情報は難しいでしょうか。

**五十嵐係長**：児童クラブについては、39ページのところに、「令和3年度には、堀越小学校区に児童クラブ開設を目指し、定員を40人増員します。としていますので、これに向けて取り組んでいます。ただ、どこまで何をと言われると。

**山崎課長**：表の見方で、量の見込み、確保の方法ということで令和6年までのところまでは、確保したいという見立てになろうかと思えます。39ページまでのところで

すね。  
貧困の部分については、指標が埋まっていない部分は、今後指標を取得いたします。現状がわからなければ目標もわからない。その指標も今回の新大綱で国が示した部分

がかなり入っているものですから、今わからない部分があります。市にそぐわなかったものはここから除いております。「高校の中退率」という国の指標がありますが、市の教育委員会では把握できません。この辺の、市にそぐわないものは取ってありますので、今回載せたのは、今後市が取得できるのかなと見込んだものです。今後市で取得をして、中間報告の時に、取得をした結果今どうなっているのかということ、皆様の方にお伝えをしていければ。そして、他の指標については、令和6年度という部分が、今後の目標と言えば目標になろうかというような見方でお願いします。

**委員**：笹神地区のすみれ保育園が、立派なものが建ちました。学童をやっていますよね。

**山崎課長**：昔の住宅で、定員24人でやっております。すみれ保育園は、老朽化して建替えた。新潟地震の前からある木造だということで、建替えました。学童ではなく、こども園です。

**委員**：あまり素敵なので、学童もやっているのかと思った。

**委員長**：具体的な数字も大切なことだと思います。どこにどれだけの需要があって、満たすために施設整備をしていくとか、他市の計画だと、数字が挙げられていて、それに対してこういう風に整備していきますとあります。例えば、すみれのように、この地域は建物老朽化のためにこういう整備をしますというのが、具体的に書かれているのですね。そういうのも、事前にパブコメを取るようだったら、要望調査とか挙げてもらえば、難しいかもしれないが。

具体的に数字を挙げられるようであれば、挙げていただきたいというご意見だったのですが、これで、今回完成ではないですよ。一旦、これで出ささせていただくということで皆様方からご了解をいただいて、次回の第2回会議の時に、具体的にこんな風にした方が良いのではないとか。各地域の皆様方の代表としてご参加かと思えますので、持って帰っていただいて、各地域でのこういう形が出るそうなのでどうでしょうか、というものを皆様方から広くご意見を募っていただいて、パブコメとは別に。委員として情報収集をしていただいて、第2回の時にここでいろいろと議論をするということでしょうか。

スケジュールも先ほど事務局が示したスケジュールで進めていただくとして、そこから逆算して、各委員の皆様方、広く意見を聴取して、私であれば、保育会から意見を聴取する、各保護者の皆様方から意見を聴取するというので、8月20日以降の第2回の会議の時に持ち寄っていただいて、パブリックコメントとあわせて最終的な決定とするという会議にするということで、よろしいでしょうか。

よろしいと見てよろしいですね。ということで進めていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

これを持ちまして、用意された議題も終了しましたので、進行の方を事務局へお返しします。

**五十嵐係長**：丸山委員長ありがとうございました。また、委員の皆様さま貴重なご意見大変ありがとうございました。それでは、本日の子ども・子育て会議は以上で終了とさせていただきます。次回は、パブリックコメントの結果をご報告し、修正計画案をお示しできればと思っております。

本日は、どうもありがとうございました。

## 9 問い合わせ先

民生部社会福祉課児童福祉係 TEL：0250-62-2510（内線 2150）

E-mail：shakaifukushi@city.agano.niigata.jp